

## 第 1 回諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会における主な発言

2018/6/19 クリーンレイク諏訪

	委員名	所属等	発言概要
有 識 者	井上委員	天竜川総合学習館 館長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習館では、子供たちや親に川や地域の伝統行事を知ってもらい、川に触れてもらう取組を行っている。</li> <li>・施設は大きくすると近寄りがたいものになる。小さくするとつまらなくなる。</li> </ul>
	今井委員	国立環境研究所 琵琶湖分室長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査と研究は異なる。モニタリングは財産になり重要であるが研究ではない。このセンターにパーマメントの研究者を置くかどうかで機能は変わる。研究に力を入れるのであれば、県組織の人事に連動させるとよくない。数年で異動するとちゃんとした研究できないので、研究できる体制を考えていったほうがよい。</li> </ul>
	沖野委員	信州大学名誉教授 諏訪湖クラブ会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信をきちっとやっていただきたい。</li> <li>・今までであるような試験研究機関の概念を打ち破って、ネット社会でもあるので十分活用し新しいものを考えていただきたい。</li> <li>・湖周 6 市町村の博物館や諏訪教育会等との連携をとっていく必要があるのではないかな。</li> <li>・知事が替わっても、永続的にセンターが残るようにしてもらいたい。</li> <li>・諏訪湖の諸元に関し、水深データは何十年も前のものなので見直すべきと考える。</li> </ul>
	小口委員	セイコーエプソン 課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出張先から帰って諏訪湖を見ると、県外から来た方もそうかもしれないが感動的なものがある。</li> <li>・高校時代はボートに乗る機会があった。ボート大会の後は湖に飛び込むのが恒例になっており、身近な体験となった。諏訪湖に接する機会が住民にもあればよい。</li> </ul>
	傳田委員	土木研究所 主任研究員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方向性案の機能の②で県内河川・湖沼の水質保全に関する調査研究とあるが、生態系との両面で調査研究が進められればよい。</li> <li>・ワカサギ等の大量死の際に感じたことだが、県や信州大学で持っているデータを一つの場所に集約できれば、よくないことが起きた場合にも対応力が上がる。</li> <li>・自然史や社会風俗的なものとの連携。諏訪湖と周りの自然環境を含めて観光客等は魅力を感じているのでは。多面的に情報収集を行えばより諏訪の風土が分かるのでは。</li> </ul>
	宮原委員	信州大学山岳科学 研究所 准教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告書等これまで蓄積されたデータが、かなり埋もれて活用できなくなっているのでは。未来に向けて情報発信をしていくのも大事だが、過去の貴重な情報をデータベース化できれば湖の変化等も把握できる。</li> <li>・小学生の娘が諏訪湖で舟に乗って 1 周する機会があった。例えば市町の教育委員会において、6 年間のうち 1 年間は諏訪湖に行く機会を提案していったらどうか。</li> </ul>

	委員名	所属等	発言概要
	山崎委員	ママ育プロジェクト 代表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母親の社会性は子供の社会性につながる。対象を限定せず様々な方が行き来できるセンターになればよい。</li> <li>・SDGsのセミナー等を開催している。諏訪湖を通じてそういったもの考える機会があってもよいと思う。</li> </ul>
湖 周 市 町	百瀬委員 (代理： 小口主幹)	岡谷市市民環境部 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもエコクラブなど実施しているが、諏訪湖に行くまでには至っていない。</li> <li>・私の世代だと、親が子供に「諏訪湖に行ってはいけない。危ないから近寄るな」と言われてきた。今の子育て世代の人たちが諏訪湖での遊び方を知らないのではないか。学校や団体が諏訪湖に触れる機会を企画していく必要があるのではないか。</li> </ul>
	花岡委員	諏訪市市民部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村は専門的知識が少なく職員がいないので学習面は弱い。センターに期待している。</li> <li>・春秋の一斉清掃では、子供たちも多く参加しており、ある意味諏訪湖に触れる良い機会となっている。</li> <li>・知らない方は、諏訪湖は諏訪市が管理していると思っており、諏訪市に様々な問い合わせ等が寄せられる。センターは統一的な窓口の役割も担っていただければと思う。</li> </ul>
	増澤委員	下諏訪町住民環境 課長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の湖岸清掃、アレチウリの駆除、浄化講演会等の取組を行っている。小学校にも出向いて事業の紹介をしたり、諏訪湖でのゴミ拾いをしてもらう活動もしている。</li> </ul>
県 機 関	酒井委員	諏訪地域振興局長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジョン策定の際、多くの方々と意見交換をしたが、ワカサギ等の大量死、ヒシやクロモの繁茂、悪臭など、ここ数年諏訪湖は変わってきているのではないかと不安感を持つ方が多いと感じた。</li> <li>・ビジョン実現等の取組に当たっては地域の皆さまの協力が不可欠である。正確な情報を伝えていくために、情報を一元化して発信する場が必要と感じている。</li> <li>・諏訪湖だけでなく上下流域も含めた流域全体での取組が必要と感じており、このセンターが県内河川湖沼の調査研究を行うことは意義深いと考える。</li> </ul>
	小林委員	松本保健福祉事務所 副所長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内には10の保健福祉事務所があるが、検査課は長野と松本の2所のみ。松本は中南信を担当している。</li> <li>・昭和46年から諏訪湖の水質調査を行っている。植物プランクトン調査については平成24年度から、諏訪湖では2か所実施している。</li> </ul>
	斉藤委員	環境保全研究所 次長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全と保健衛生の調査研究を行っている。</li> <li>・諏訪湖に関しては、どちらかというと調査の部分に力を入れている状況である。諏訪湖は下水道の普及等により水質が浄化されてきたが、現在は変革の時期にあり先が見えない状況かと思う。そういった中では情報の蓄積が大事ではないかと考えている。</li> <li>・最終的には調査したデータを研究につなげていく必要はあると考えている。</li> </ul>

	委員名	所属等	発言概要
	澤本委員	水産試験場 諏訪支場長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本支場は、基本的には漁業、養殖業、寒天等の水産業の振興が目的である。諏訪湖の漁業資源が維持されるためにはどのような環境が必要か、どのような変化があるのかという面から今まで調査してきた。ヒシ調査も漁業資源等の観点からである。</li> <li>・広く南信地域全体を管轄エリアとしている中で、今後どのようにセンターに関わっていくかを考えていきたい。</li> </ul>

### 第1回検討会後に寄せられた意見・提案等

氏名	所属等	意見・提案等
沖野委員	諏訪湖クラブ会長	研究センターの役割、組織として、住民が利用できる「市民科学研究室」を検討いただきたい。これにより開かれたセンターとしての機能が加わり、これまで閉鎖的と見られていたセンターの機能が改善されるのではないかと。
宮原委員	信州大学山岳科学 研究所 准教授	今後、具体的なテーマについて検討するにあたり、どのような情報が必要なのか、事務局でどのような情報を集めているのか等を、事前に相互でやりとりさせていただければ、検討会当日、内容のある検討ができると思われる。